

経営発達支援事業(米沢市) 令和5年度 事業評価委員会 報告書

1. 日 時 令和5年 8月25日(金) 9時30分～10時30分
2. 場 所 米沢商工会議所 第3会議室
3. 出席者名 資料 出欠名簿のとおり 計 17名
4. 議事の経過

米沢商工会議所副会頭太田紀男氏の挨拶の後、太田紀男氏が議長となり、以下の議題について審議に入る。

<議 題>

(1) 本委員会役員を選任について【審議】

事務局より、資料P2～3の経営発達支援事業評価委員会設置規程を説明。規程に基づき、役員を選任。互選にて委員長に大澤一雄氏(税理士)、副委員長に高橋輝氏(司法書士)を選任した。

ここで議長が太田氏から大澤委員長に交代した。

(2) 経営発達支援計画の概要について【説明】

事務局より、令和2年3月認定の第2期経営発達支援計画について、資料P4～8、ならびに経営発達支援計画書に基づき、説明を行った。

(3) 令和4年度事業報告および令和5年度事業進捗状況について【説明】

事務局より、資料P9～14、別添資料に基づき、令和4年度事業報告・令和5年度の事業進捗状況について説明を行った。

【実施概要】資料8Pスキーム図を参照

(事業計画作成／フォローアップ)

- ・米沢商工会議所では経営発達支援事業に基づき、簡易な経営分析を行う支援対象者の抽出(掘り起こし)機会を増やしつつ、より詳細な経営分析を行い、経営状況から問題点を正確に把握・分析し、課題を抽出し、事業計画を決定している。その中で、事業計画作成を行った事業所数は目標の50件に対し、60事業所、64件であり、そのフォローアップも目標200回に対し、276回と目標を大きく上回った。
- ・経営指導員側では限られた人員と支援にかかる時間も不足する中で、支援内容を平準化し、支援能力の向上と効率化を図ることが求められるため、より積極的なIT活用を推進する必要がある。そのため、全国200以上の商工団体が運用する経営支援基幹システム「BIZミル」を活用し、経営分析から事業計画書まで一貫した支援ならびに事

業者へのフィードバックと情報共有を実現している。

(地域の経済動向／需要動向調査)

- ・地域の経済動向や需要動向の現状把握を行うため、事業者ならびに地域イベントや施設への来場者(消費者)を対象にアンケート調査等を実施。小規模事業者が調査結果を活用できるよう、米沢商工会議所報やホームページ等で広報を行っている。事業者へのアンケート調査(米沢版小規模 LOBO 調査等)は4回目標の内4回実施し、結果をホームページ等で公表している。

消費者アンケートはコロナ禍でイベントそのものが中止となることもあるなか、4回実施の目標の内、3回実施し、それぞれ80～175標本と概ね目標を達成した。

実施内容は対象事業者にフィードバックし、販売計画のブラッシュアップに活用していただいている。

(新たな需要の開拓に寄与する事業)

- ・事業計画作成セミナーでの個別相談会で個々の商品企画や商談能力向上などノウハウ取得へつなげたうえで、ふるさと納税返礼品の登録や一店逸品事業・まちなかゼミナールなどでの販路拡大を図った。
- ・コロナ禍での商談会となり、実施件数は若干目標を下回る結果となっているが、参加事業者の売上向上と歯止めが見られた。
- ・行政、複数の支援機関や商工会議所との連携での支援実施やそれに伴うブランド構築などの支援事例を創出できた。

以上のことから、次年度につながる一定の成果が見られた。

(米沢商工会議所の具体的支援事例)

- ・米沢市中小企業新展開促進事業を中心に、1件を紹介(他16件は紙面紹介)

(4) 各委員からの意見および提言等【評価】

大澤委員長より事務局が説明した内容について各評価委員に意見・質問を促した。

意見ならびに質問は以下の通り。

- ・コロナ禍において傷ついた小規模事業者を継続支援していくのは非常に難しいことであり、苦労があると思う。その中で支援であり、また目標を大きく達成できている項目が多いのは評価できる。一方、一部達成できていないものもあり、アフターコロナに入った局面でもあるので、引き続き頑張りたいと思う。
- ・実施後のサポートが非常に重要だ。様々な支援策や方法を探して、フォローを行ってほしい。
- ・伴走型での支援は金融機関も同じである。金融機関と商工会議所の経営指導員が情報交換を常に行える環境が必要だと思う。その中で、10月12日に経営指導員と市内金融機関の融資等担当者が一堂に会する機会を作ることになった。これを絶好の機会とし、連携体制を充実させるべきと考える。

- ・相談件数も目標に達しており、事業を着実に進められていることも米沢商工会議所報等で確認できている。一方、当方への事業承継の相談の際、相談事業者から商工会議所で何ができるのかよくわからないとの話があった。については「商工会議所でできること」のPRを所報等で継続実施することが重要ではないかと思う。それにより、「何かあれば商工会議所に相談できる」と、事業所は心強く感じるのではないか。今後、より一層広報に力を入れて欲しい。
- ・事業計画の策定等、目標を達成されており、また問題や課題を把握し、事業計画を作成後に実行するなどスキームが分かりやすく評価できる。補助金を活用した事業者の活躍も見られ、今後の活動に期待している。また、「補助金を活用したいから事業計画を作りたい」とのアプローチもあると思うが、補助金採択を手伝うだけではなく、実施後のフォローアップが重要だと思っている。現状、フォローアップも目標に達しているので、こちらも評価できると考える。一方、重点支援終了後、どのように自走してもらいかも重要で、フォローアップでは事業者が自走してもらえるように進めてほしい。また、事例紹介された事業者をどのようにPRしていくか。行政やマスコミ等との連携を考え、発信を重視して進めて欲しい。
- ・ウィズコロナからアフターコロナに入った局面である。急激な需要の回復で人手不足も起きている。経営者は頭の切り替えとスピード感が重要。いずれにしても顧客獲得は新しいフェーズに入っており、経営はどんどん難しくなっている。今回紹介された事例は小規模事業者が障害となっている部分を取り除く支援で、非常に良い取り組みだったと考える。特に商工会議所がマーケティングの支援を行ったことは評価できる。小規模事業者は一人で考え、営業している方も多く、アイデアが枯渇気味であると思うので、実現できたのが良かった。一方、事業承継は喫緊の問題だ。高齢化は待ったなしの状況。地域で愛される良い店が消えていくのは本当に忍びない。対策を考えて欲しい。なお、今回の支援内容は複数機関での連携、実績について評価できている。
- ・コロナ禍前には需要は完全に戻っていないと考える。今の支援はコロナの最中よりも重要ではないか。事業者支援は事業計画作成とフォローアップが重要と考えるが、目標を達成できており、評価できる。ただし、フォローアップについてはより一層の分析に基づくことが必要だと思う。何が計画とずれているのか数字などの具体的に提示しなければならない。
- ・補助金の採択は評価できるが、それをもってどのように売上が向上したのか。参考数字をより詳しく教えていただくとわかりやすい。

質問

- ・令和5年度は目標に対して、順調に進んでいるのか？また、現状、コロナに関する補助金は少なくなっているのか？前年度は補助金をきっかけにした支援が多くなっていると見受けられるため、補助金が少なくなると支援も少なくなるのでは？
- コロナに対する支援金（給付金）はほぼ無くなっている。コロナ対策きっかけの補助

金も大幅に減少した。その代わりにインボイス制度対策やDX、物価高騰対策、省エネなど別の形となっている。事業者のニーズをしっかりと把握して紹介していきたい。

以上の意見・評価をいただいた。

(5) その他

次回、評価委員会は経営発達支援計画に基づき、令和5年度に令和4年度の事業結果がまとまった時点でできる限り早く開催することとした。

以上をもって会議を終了した。

【評価委員からの指摘事項について事業実施の見直し検討】

- ①アフターコロナに入り、コロナ前と事業環境が変化していることをより一層周知する。また米沢商工会議所が経営改善のみならず、経営発達(改革)を伴走型で支援していくことをしっかり伝えていく。そのために米沢商工会議所が、“できる”こと、支援事例を丁寧に紹介し、種々の機会をもってPRしていく。
- ②事業者のフォローアップを実施する際には状況の聞き取りに加え、試算表などを確認、分析する。詳細分析後、専門家派遣事業等を活用しより深く検証することで充足している点、不足している部分を明らかにし、次のステップへの移行を促す。
- ③新たな需要の開拓となる「商談会」「展示会」「即売会」への積極的な出展誘導や、行政や金融機関と連携したマッチング・紹介事業を積極的に行う。また、出展が成果につながるよう事前指導やフォローアップに努めていき、地域のモデルとなる事業を増やすことで、実施効果について未実施事業者へのPRを図っていく。

【当日の様様】

